

「前回は『嶺上開花』、『檜橋』、『三槓子』という3つの『役』をお伝えしました。今回はまず、このタミングで伝える残りの『役』について説明したいと思います。

### 「麻雀を楽しくスムーズに覚えてもらうためにはどうすれば？」

この連載は麻雀教室の開講をお考えの営業者に、現役麻雀講師が持つスキルのすべてを大公開！連載第15回目は、いよいよ『役満』の登場となります！

◎素敵なネーミングの『海底撈月』  
『河底撈魚』

その『役』は『海底撈月』(ハイテイラオユエ) (または海底撈月) 『河底撈魚』(ホウテイラオユイ)です。海底とは、局の最後

に行われるツモのことを指し、河底とは局の最後に行われる打牌のことを指すのですが、この2つの役のネーミングセンスとても素敵ですね。『海底撈月』は「海の底から月を取る」という意味で、『河底撈魚』は河の底から魚を獲るといった意味なので

す。どちらとも月と魚をアガリに見立ててのネーミング。これも素敵な名前なのですが、私は『海底』と『河底』という考え方が私よりも好きなのです。捨て牌のことを『河』

### 『河』の概念がなかった中国の麻雀から、細かく精査された日本の麻雀に発展していく過程において、大正時代に制定されたという『海底撈月』と『河底撈魚』。この名前について

の由来や、『海底』と『河底』の意味などを交えて生徒さんに伝えると、生徒さんからの先生の評価がグンとあがるのではないのでしょうか？

◎いよいよ『役満』登場！

壁牌(ピーハイ)のことを牌山と言います

よ。牌山の最後なのに、何故『海底』と言うか考えたことってありますか？ この考え方が私が『海底撈月』を好きが理由なのです。麻雀とは関係なく、普通、山の最後って何だろう？と考えた時、皆さんなら何を想像し

されていと思います。麻雀を学ぶ皆さんには、その凄さを伝えるところから始めます。『満』は一番高い役であるということの説明するのです。『役満』が麻雀の役において一番高い役だと言われてもなかなか伝わりませんよね。ですから、点数におけるいくつかの例を先に伝えるのです。まず、ここまで点数についてはまだ触れてきませんでした。最初は各自の持ち点の説明から伝えるようにしましょう。スタート時、各自が25000点(または30000点)、全員合計で10万点(または12万点)を持ってスタートします。...といっても、最初はピンとこ

### ◎まずは『四暗刻』 『大三元』 『国士無双』 を教えよう！

ここまでは伝えた上で、『役満』の説明に入ります。役満の中で最初に伝える役は、『役満』の中でも比較的ポピュラーなものから伝えるようにします。それは、『四暗刻』 『大三元』 『国士無双』 の3種類の役満です。その中でも最初に伝える役満は『四暗刻』(スーアッコ)です。これは以前、『三暗刻』を伝える時に補足として『四暗刻』を伝えてあるはずですが、数字を使わず表すのは

順子よりも刻子の方が圧倒的に作るのが難しいことをお伝えしてあるはずですが、ですから、組み合わせ(メソツ)を作るときは刻子ではなく順子を作りましょう、とここまでの講義では伝えてきましたよ。

『四暗刻』は、『暗刻』が4組ある形です。これは以前、『三暗刻』を伝える時に補足として『四暗刻』を伝えてあるはずですが、数字を使わず表すのは

ツクリとした顔をさねます！ 「先生、そうしたら支払う点数が無くなっちゃうじゃないですか！」

順子よりも刻子の方が圧倒的に作るのが難しいことをお伝えしてあるはずですが、ですから、組み合わせ(メソツ)を作るときは刻子ではなく順子を作りましょう、とここまでの講義では伝えてきましたよ。

### 作るのが難しいから点数が高い。これだけで『四暗刻』の価値を伝えることが出来ると思っています。

この説明で不十分だと思う方は、『三暗刻』との違いを伝えてあげると良いかもしれませんね。『三暗刻』は2翻であることはお伝えしてあるはずですが、この2翻、いったいどのくらいの点数なのかということをご自分で数字を使って表すのは

『三暗刻』は2翻であることはお伝えしてあるはずですが、この2翻、いったいどのくらいの点数なのかということをご自分で数字を使って表すのは

『三暗刻』は2翻であることはお伝えしてあるはずですが、この2翻、いったいどのくらいの点数なのかということをご自分で数字を使って表すのは

どうでしょう。一般的な場合、『三暗刻』だけで50符2翻であることがほとんどです。つまり、子は32000点、親は48000点ということになります。ここから『刻子』が1つ増えるだけで、『四暗刻』という『役

ですが、『四暗刻単騎』は出アガリでも『役満』になるというのがポイントです。次に伝える『役満』は『大三元』(ダイサンゲン)です。『大三元』という名前は、麻雀をご存じない方でも聞いたことがあるくらい、麻雀の役の中では有名な役の1つです。『大三元』は『役満』の中では珍しい『部分役』の役満です。白、發、中の3種類の三元牌が、すべて刻子であることが条件で、9枚で作る『部分役』であるということですね。つまり残りの5枚は何でも良いという点になります。この『小三元』は4翻ですね。しかし内訳は、役牌プラス役牌の2翻と、小三元の2翻を合計して4翻ということになります。

### 『小三元』は白、發、中の三元牌のうち、2種類を刻子で、1種類を雀頭とした形です。こちらも部分役です。こちらも部分役です。残りの6枚は何でも良いということになります。

この『小三元』は4翻ですね。しかし内訳は、役牌プラス役牌の2翻と、小三元の2翻を合計して4翻ということになります。

雀頭部分に2翻の価値があるということですね。『大三元』と『小三元』の違いはたった1枚。この1枚の違いで、『大三元』は32000点か48000点、『小三元』は8000点か12000点。1枚の牌の価値についてもこの『大三元』を例にして伝えてみるのも良いかもしれませんね。長くなりましたので『国士無双』はまた次の機会に。

『三暗刻』は2翻であることはお伝えしてあるはずですが、この2翻、いったいどのくらいの点数なのかということをご自分で数字を使って表すのは

『三暗刻』は2翻であることはお伝えしてあるはずですが、この2翻、いったいどのくらいの点数なのかということをご自分で数字を使って表すのは

# 麻雀を教えるってどういうこと？



PROFILE  
麻雀店経営にも携わる現役麻雀講師。麻雀プレイヤーとしての顔も持つ。その歯に衣着せぬ発言は麻雀を愛するがゆえ。